

<新発田市立川東中学校>

ふるさと新潟防災教育 自校化プラン

<p>学校・児童生徒・地域等の実態 ※地域の優先ハザード</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・二王子岳の麓に位置する平地に校区が広がっている。また、加治川と姫田川に挟まれる地形にあるため、局地的な大雨や豪雨が発生した場合に、河川氾濫や土石流による被害も警戒される。 ・実際に令和元年10月の台風19号接近の際には、川東コミュニティセンターが自主避難所として開設された経緯もある。
<p>保護者・地域・教職員等の願い</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・災害時における危険を認識し、日常的な備えとともに状況に応じた確かな判断をして、自らの安全確保をするための行動ができるたくましさを身につけてほしい。 ・災害発生時や事後において、命の大切さや相手を思い、進んで他の人々や地域のために役立とうとする心が育ってほしい。 ・自然災害発生メカニズム、地域の災害の歴史、地域の自然環境、災害や防災についての予測や想像力などの基礎的・基本的事項を理解できるようになってほしい。
<p>防災教育において目指す児童生徒像</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の命を自分で守る力を身につけていく生徒。 ・被災地での現実を他人事とせず、自分事として想像できる生徒。 ・常に何をすべきか冷静に考えられる判断力、思考力を身につけた生徒。 ・積極的に社会や周囲とかがかわろうとする社会性を身につけた生徒。
<p>補助交付期間に実施した主な取組</p>	<p>非常災害時に、自他の安全のため適正な判断をもって秩序を守り、冷静沈着かつ敏速に行動できる能力を養う。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 第1回避難訓練（校舎内で火災が発生したことを想定した避難訓練） ② 救急法研修会（全校生徒に対する心肺蘇生法とAEDの使用法の習得） ③ 第2回避難訓練（不審者対応を想定した避難訓練） ④ 防災教室（避難所生活を体験することから考えよう） ⑤ 第3回避難訓練（地震発生及び津波発生を想定した避難訓練）
<p>自校プランの内容</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・年2回以上の避難訓練の実施（火災・地震津波・不審者） ・外部講師を招いた「防災教室」の実施（救急法・避難所） ・自分の命を守るための行動と、他の人のために役立つ行動を取る中学生になるための指導
<p>自校プランを継続するための方策</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1 災害に対する理解 自然災害のメカニズム、災害時の危険、地域の自然環境・災害の要因、県内・地元の過去の災害の歴史、想定外に目を向けられる学習 2 災害対応能力の育成 迅速・的確な避難行動について、日常の備えについて、応急措置の方法、施設設備の点検・搬出・消化の確認 3 災害時の人としてのあり方 生命の大切さ、思いやり、やさしさの大切さ、心の健康について、ボランティア活動への意欲・参加

新発田市市立川東中学校 「ふるさと新潟防災学習」年間活動計画

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
第1学年		第1回 避難訓練 (火災)		防災教室 第1回 (救急法)			防災教室 第2回 (避難所)	第2回 避難訓練 (不審者)			第3回 避難訓練 (地震津波)	
第2学年												
第3学年												

実践報告書

(1) 事業名	「川東中学校防災教室」 ①救急法講習（6月7日） ②避難所生活を知ろう（10月30日）
---------	--

(2) 実践報告

実践内容及び児童生徒の様子	<p>1 非常時に人命救助の手助けができる中学生になろうという意識がもてた。 （心肺蘇生法とAEDの使用法を実際に体験することから学ぶ）</p> <p>2 身近で避難所が開設され、避難を余儀なくされた時の判断や行動を考えることができた。 （どんな心理状態に陥るのか、どんなトラブルが想定されるか、川東中学校にはどんな備蓄品があって、何を常備しておけばいいか）</p> <p>3 他人事としてではなく、自分事として捉えて考えることができた。 （自分は何ができるか、どう行動したらいいか）</p>
成果と今後の課題	<p>1 成果 話し合い活動や体験活動を通して、具体的にどうすれば良いのかを理解することができた。生徒の意識が高まった。</p> <p>2 今後の課題 毎年継続して指導をしていくことが望ましい。外部講師を招聘できる予算の確保や、備蓄品の使用等に関する行政の理解が必要。</p>

実践の様子



救急法講習の様子



避難所生活の体験指導の様子

新発田市立川東中学校 防災学習計画案

日時：令和元年10月30日（水） 13：40～15：30 会場：体育館及び各教室

対象：新発田市立川東中学校 全校生徒80名程度（6名程度のグループで活動する）

講座の流れ：

13：40～14：20

1. 災害時の避難所の様子や課題をつかむ（全校で体育館） 10分

- ・赤ちゃんからお年寄り、病気や肢体不自由な方など様々な人が避難してくること
- ・避難所について（どんな時に開設するのか、だれが運営するのか、等）知る
- ・実際の避難所で起きた困りごとについての紹介

2. 避難所で起こる様々な課題についてグループで対応策を考える。 25分

- ・練習としてAの課題を提示し、対応策について少し相談させた後、実際の体験談を伝える。活動のやり方のイメージを持つ。（10分）

A) 震度6弱の地震から1日後（11/月上旬）夜9時。川東中学校には、1,000人が避難しています。体育はほぼ埋まり、通路も十分に無いような状況です。

事例「寝かせてください！」

地震の翌日、昼間は地域の被害の様子を見周り、疲れ果てている年配の男性やショックで1日横になって動かないお年寄りもいます。夜になり、不安や溜まった疲れのせいでみな静かに横になっています。そんな時、赤ちゃんが泣いている声が聞こえてきました。起き上がって、ため息をつく人、ブツブツ小さな声で文句のようなものも聞こえてきています。

※避難所を運営する際に多様な避難者を「排除（追い出す）」「隔離（さける）」「無視（相手にしない）」する傾向が生まれやすいことを伝える。その判断が、人を避難所に居ることができなくなってしまうことや最悪、人を死に追いやることにつながる可能性を伝える。

※避難所の運営に正解はないことを押さえる。その場の状況に応じて、「命を守る」ことを第一に臨機応変に対処していくことが大切なことを伝える。

- ・課題Bについて、対応策とその理由をグループごとに考えA3用紙にプロッキーで記入する。

相談10分⇒発表5分

B) 震度6弱の地震から3日後。今も大勢の人が避難している。

事例「トイレに行きたくない」

電気はついたが、ガス・水道はまだ使えない。トイレはこれまでプールの水を使い流して使っていたが本日、仮設トイレが避難所スペースから離れた場所に設置された。ふと、ラジオから高齢者が避難所のトイレでなくなっていたというニュースが聞こえてきた。トイレを我慢するために、食事や水分をあまりとっていなかったようだ。

- ・1、2グループから発表させ、実際に避難所で小中学生が交代でお年寄りをトイレに連れていくボランティアや体を動かすためにラジオ体操を始めた例を紹介する。

3. まとめ 5分

全ての人安心して過ごせる環境を実現するために、誰か任せではなくみんなが協力することや大人も子どもも相手を理解しようとする心を持ち、話し合うこと（対話）が大切なことを伝える。

<休憩 10分>

14:30~15:30

1. 新発田市内の避難所の備蓄について伝える

5分

- ・新発田市内の避難所では食料の備蓄はほとんどない。大型スーパー等から食料や日用品が配達されることになっている。
- ・大きな災害の時はすぐに配達することがむずかしいこともある。事前の備えやあるもので工夫することも大切なことを伝える。
- ・実際に避難所の体験をし、「災害が起きた時に自分や家族、地域の人を守るために自分に何ができるか」を考えながら体験することを伝える。

<移動5分>

2. 川東中学校が実際に避難所になった時の様子を体験する

35分

以下の活動を体験する。(15分×2+移動5分)

- A. 川東中学校の備蓄品を紹介し、実際の避難所でどのように使われるかをマットや段ボール、毛布を使ったスペースを体験する。 担当：教頭先生

※実際に横になり、マットが1枚と2枚の時の違いを体験する。

- B. 家庭での備えについて実物を見せながら紹介し、物が無い時の工夫として新聞紙コップ作りを体験する。 担当：ふるさと未来 中野明子

※講師が新聞紙コップにアイラップをかぶせ、実際に水を入れて飲んで見せる。

<移動5分>

3. まとめ

10分

- ・過去の避難所生活で活躍していた小・中学生の例を伝え、中学生の行動が安心して過ごせる避難所につながることを、大人を笑顔にすることができることを伝える。
- ・日頃から「排除（追い出す）」「隔離（さける）」「無視（相手にしない）」を忘れずに協力し、自ら考え、行動することを伝えまとめる。

準備品：プロジェクター、スクリーン、HDMIケーブル、電源ドラム、マイク、PC置き用机、

A3用紙2枚×グループ数、プロッキー×グループ数、新聞紙1人1枚、

学校内備蓄品、持ち出し品展示用長机2台

※PC、家庭の備え（持ち出し品や防災グッズ）、段ボールパーテーション、段ボールトイレ、紙食器実演用アイラップ1枚は持ち込みます。

ご不明な点等ございましたらご連絡ください。

以上

新発田市立川東中学校 防災学習

地域の一員として
災害時の避難所を考える



NPO法人
ふるさと未来創造堂 中野 明子

大阪北部地震・北海道胆振東部地震（平成30年）

NPO法人
ふるさと未来創造堂

平成30年西日本豪雨

NPO法人
ふるさと未来創造堂

令和元年山形県沖地震

NPO法人
ふるさと未来創造堂

令和元年台風15号

NPO法人
ふるさと未来創造堂

令和元年台風19号

NPO法人
ふるさと未来創造堂

避難所

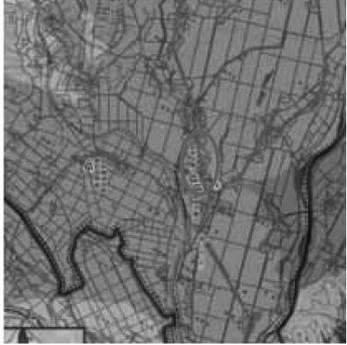
川東中学校のまわりは2～5mの浸水予想



出典：新発田市洪水・地震・津波ハザードマップ

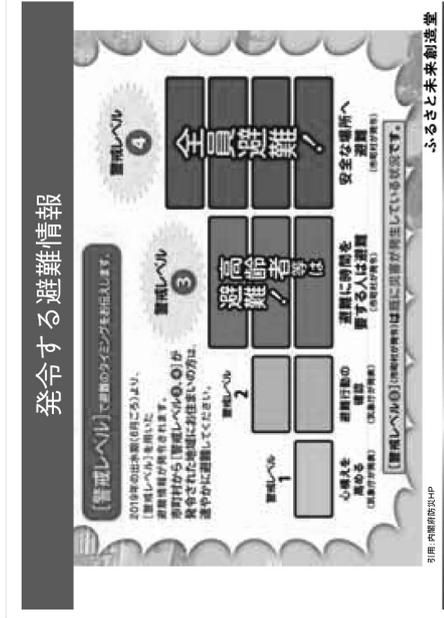
NPO法人
ふるさと未来創造堂

川東中学校区では震度6弱の予想




出典：新発田市洪水・地震・津波ハザードマップ

NPO法人
ふるさと未来創造堂



それを誰が支えるの？

情報・物・支援策を持っている人 **+** 市の職員

施設（避難所）をよく知っている人 **+** 中学生にできることは？

地域・被災者をよく知っている人 **+** 地域の人

避難者+協力者（ボランティア等） **+** ふるさと未来創造堂

避難所は、赤ちやんからお年寄りまで、みんなでする場所

NPO法人 ふるさと未来創造堂

避難所とは

- 不幸な死者を出さないよう、みなで協力して支え合う場所
- 生活の再建に向けて、“心”と“体”の準備をする場所

NPO法人 ふるさと未来創造堂

ケガ人や病人、持病のある方もいる。

NPO法人 ふるさと未来創造堂

日本語がわからぬ人、自然災害や避難所を知らぬ人もいる。

NPO法人 ふるさと未来創造堂

不安でいっぱい！情報がほしい！

NPO法人 ふるさと未来創造堂

物資置き場と在庫管理も大切。汲いつ届くのかわからぬことも。

NPO法人 ふるさと未来創造堂

断水で水が出ない。流せない。

下水管が壊れていたら、使っては行けない。水が確保できても、使っては行けない。

NPO法人 ふるさと未来創造堂

<p>個別に悩みを相談したい人もいる。</p> <p style="text-align: right;">NPO法人 ふるさと未来創造堂</p>	<p>熊本市立桜木東小学校</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <p>ひなん所の運営をするひなん者のリーダー 「物がたりない」「人手がほしい」 →2週間後、、、ひなん所に来なくなつた。 もっと助けてくれる、協力してくれる人がいたら・・・</p> </div> <p style="text-align: right;">NPO法人 ふるさと未来創造堂</p>	<p>避難所で起こる様々な問題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・避難スペースのかわたより・コミュニケーション不足 ・生きるために最低限必要なものもない ・体調不良、ケガ人、高齢者の対応 ・いひき、せき、歯ざしり、寝言、泣き声 ・プライバシーの欠如・ノラワラな生活スタイル ・トイレの水が流れない・役割分担の偏り等々 <p style="text-align: right;">NPO法人 ふるさと未来創造堂</p>
<p>様々な事情や思いを抱えた人たちが 同じ空間で生活をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の事で精一杯。わかまみに見える人 ・意見はするけれど、行動までではない人 ・ルールを守れない理由がある人 ・我慢が当たり前で、声に出せない人 <p style="text-align: right;">NPO法人 ふるさと未来創造堂</p>	<p>想像してみよう！ グループで困りごとを解決する方法を考える</p> <p>震度6弱の地震発生翌日 18時 川東中学校には、1,000人が避難</p> <p>体育館は、いづばい 通路もない状況</p> <p style="text-align: right;">NPO法人 ふるさと未来創造堂</p>	<p>屋間は地域の被害の様子を見周り、 疲れ果てている年配の男性、 ショックで1日横にぶなつたままのお年よりもいます。 そんな時、赤ちゃん泣いている声が・・・ 起き上がって、ため息をつく人、ブツブツと小さな 声で文句のようなものも聞こえてきます。</p> <div style="background-color: #333; color: white; padding: 10px; text-align: center; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <p>どんな解決策が ありますか。</p> </div> <p style="text-align: right;">NPO法人 ふるさと未来創造堂</p>
<div style="background-color: #333; color: white; padding: 20px; text-align: center;"> <p>大きな声にも小さな声にも 耳をかたむける。 人は1人では生きられない。 「人」を救うのは「人」</p> </div> <p style="text-align: right;">NPO法人 ふるさと未来創造堂</p>	<div style="background-color: #333; color: white; padding: 20px; text-align: center;"> <p>仮設トイレは屋外。 トイレの近い高齢者の中には、 迷惑になることを心配して 軒先で生活する人も・・・</p> </div> <p style="text-align: right;">NPO法人 ふるさと未来創造堂</p>	<p style="text-align: center; font-size: 1.2em;">「トイレに行くのが大変そうなお年寄りを見て思いついた。」 トイレの介助を手伝う、小・中学生。</p> <p style="text-align: right;">NPO法人 ふるさと未来創造堂</p>

川東地域はみんなを守る
 だれか任せではなく、みんなで協力！
 相手を理解しようとする心を大切に！
「想像」と「創造」

NPO法人
 ふるさと未来創造堂

まとめ知識！防災クイズ！

川東中学校は、
 災害が起こると避難所になる。
 学校には、200人分の
 食べ物が準備してある。

出典 新発田市水・地震・津波対策アドバイザー
 ふるさと未来創造堂

防災クイズ 答え



NPO法人
 ふるさと未来創造堂

防災クイズ 答え

新発田市の避難所に、
 食べ物や飲み物の備えは、
 ほとんどありません。

新発田市は、大きなスーパー等と
 災害が起きた時、食べ物等を
 届けてもらおう約束をしています。

ふるさと未来創造堂

防災クイズ 答え

新発田市の避難所に、
 食べ物や飲み物の備えは、
 ありません。

自分の家で、非常食や水等の
 非常用持ち出し品を
 しっかりと準備しておきましょう。

ふるさと未来創造堂

「今後どうなるのか不安だが、
 僕らのような若者が
 頑張らないといけない」

避難所を支える中学生
 「生まれ育った阿蘇のため」

NPO法人
 ふるさと未来創造堂

中学生にできることは**“無限大”**
 地域の宝であり、大きな**戦力**！

“勇気”を出して行動を！

家族・地域を助けるためにも、
絶対に、自分の命を自分で守れ！

NPO法人
 ふるさと未来創造堂

「自分ができることを
 自分で考え、行動します。
 1人でも多くの笑顔が戻るように。」

NPO法人
 ふるさと未来創造堂

避難している小・中学生
 →言われたわけではなく、自分たちに
 できることを見つけて取り組んでいた

ふるさと未来創造堂

<新発田市立猿橋中学校>

ふるさと新潟防災教育 自校化プラン

<p>学校・児童生徒・地域等の実態 ※地域の優先ハザード</p>	<p>校区内は新々バイパス、南バイパスなど市外周辺からの交通の便が良く、大型店舗や娯楽施設が形成されている。これに伴い、年々人口が増え続け、新たな宅地造成及び家屋の建築も急速に進んでいる。一方で旧来の住宅街は密集しており、火災や家屋の倒壊等により、災害救助に時間がかかることが予想される。</p>
<p>保護者・地域・教職員等の願い</p>	<p>保護者は教育的関心が高く、学校に対する期待や要求も大きい。保護者・地域・教職員から組織される「猿橋中学校区すこやかな子どもを育てる会」を結成し、学校の教育活動に協力的である。</p> <p>有事の際は、生徒の安全確保を最優先とするが、状況によっては避難時要支援者のサポートも中学生には期待されている。</p>
<p>防災教育において目指す児童生徒像</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・事故災害の要因について理解を深め、安全に行動できる。 ・災害発生時は規律ある行動をとり、避難することができる。 ・災害発生時は相手を思いやり、他の人々や地域のための安全確保や支援をすることができる。
<p>補助交付期間に実施した主な取組</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1 第1回避難訓練：5月14日 地震発生を想定（消防署職員から講話） 2 第2回避難訓練：11月8日 火災発生を想定 3 防災教室の実施：11月8日 1時間実施（NPO法人ふるさと未来創造堂を招聘） 4 1学年防災教育：11月下旬 3時間「避難所と避難者について考える」
<p>自校プランの内容</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1 外部講師による「防災教育」の実施 2 年間2回の避難訓練の実施 3 新潟県防災教育プログラムの実施
<p>自校プランを継続するための方策</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1 新潟県防災教育プログラムを計画的に実施する。 2 外部講師を継続的に招聘するための予算を確保する。 3 避難訓練後、消防署職員から講話をいただく。

新発田市立猿橋中学校 「ふるさと新潟防災学習」年間活動計画

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
第1学年		第1回 避難訓練		新潟県防災教育プログラム				第2回 避難訓練 防災教室	防災学習			
第2学年								防災学習				
第3学年									防災学習			

実践報告書

(1) 事業名	防災教室
---------	------

(2) 実践報告

実践内容及び児童生徒の様子	<ol style="list-style-type: none"> 1 火災想定での避難訓練を行った。 2 火災の被害や発生について動画をもとにワークシートに記入した。 3 煙体験を行い、煙が充満した場所での避難方法を体験した。
成果と今後の課題	<ol style="list-style-type: none"> 1 成果： 動画や体験活動によって火災の怖さを知ることができた。また、講話から火災時の自身の行動を考え直すことができた。 2 今後の課題： 継続的に講師を招聘できる予算の確保。また、火災だけでなく、地震や津波など3年間を見通して異なる学習を計画的に取り組む。

実践の様子



防災教室（煙体験での様子：左）（講師からの講話：右）



授業「非常持ち出し袋の中身を考えよう」

令和元年度 猿橋中学校防災講座



NPO法人
ふるさと未来創造堂
中野 明子・中野 雅嗣・坂谷 辰巳

活動の流れ (14:50~15:50)

- ・火災からの身の守り方について (10分)
火災発生件数や原因、死者数
煙の中の避難について
- ・煙の中の避難体験・ニュース映像 (40分)
- ・まとめ (5分)

NPO法人
ふるさと未来創造堂

木造の家は燃えやすい。
周りに燃え広がってしまう。。。

住宅が密集していれば、燃え移りやすい。
平成28年12月22日 糸織川大火 147棟

NPO法人
ふるさと未来創造堂

平成28年1月~12月 県内の火災発生件数

○出火件数 573件

○うち、建物火災 394件

火災で亡くなった人の人数は？

引用：H28新潟県火災統計値

○自殺等を除く死者は31人

そのうち、65歳以上が21人で最も多い。

67.7%

身体が不自由・寝たきり・認知症の方も・・・

○亡くなった原因は？

「逃げ遅れ」が17人

放火自殺等を除く
死者31人の54.8%

「逃げ遅れ」が11人

放火自殺等を除く
死者21人の52.4%

引用：H28新潟県火災統計値

NPO法人
ふるさと未来創造堂

夜間は、発見が遅れる。。。

NPO法人
ふるさと未来創造堂

「大切な物も思い出し、全て無くなった。」
自宅の焼けあとで思い出を探す高校生

NPO法人
ふるさと未来創造堂

○亡くなった原因は？

「逃げ遅れ」が17人

放火自殺等を除く
死者31人の54.8%

「逃げ遅れ」が11人

放火自殺等を除く
死者21人の52.4%

引用：H28新潟県火災統計値

NPO法人
ふるさと未来創造堂

火煙

ふるさと未来創造堂

煙から命を守る (その1) ぬれタオルで口と鼻を覆う

口とタオルの間を少し膨らませる
呼吸がしやすい。
熱気を冷やす効果がある
ハンカチ・ネクタイ・
衣類でも役に立つ→

引用：市民防災研究所編「熱く燃える防火講座」より

NIPOHA
ふるさと未来創造堂

視界不良と恐怖 熱気による気道熱傷 一酸化炭素中毒等

ふるさと未来創造堂

煙から命を守る (その2)

壁際や低い場所には、空気が残っている
階段は、
はうように足から降りる。
階段のコーナーに
空気が残っている
廊下は低い姿勢で、壁伝いに歩く。肘をついて床をなめるような姿勢で進む。
床ずれすれのところ
には煙は来にくい

ふるさと未来創造堂

・火災の煙は、多くの場合、様々な有毒物質を含んでいる。
その中で、最も発生量が多いのが“一酸化炭素”
・焼死者の大半は火傷で死亡したのではなく、
煙を吸って意識不明になり、炎におそわれた人が多い。
無色・無臭 → サイレントキラー



空気中のCO濃度 (%)	症状
0.02	2〜3時間で軽い頭痛がする
0.04	1〜2時間で頭痛、吐き気がする
0.08	45分でめまい、けいれんを起こす
0.16	20分で頭痛、めまい、2時間で死
0.32	5〜10分で頭痛、30分で死
0.64	5〜15分で死
1.28	1〜3分で死

ふるさと未来創造堂

実際に、濃煙内の避難が
どれだけ難しいか、体験してみよう

NIPOHA
ふるさと未来創造堂

＜新発田市立紫雲寺中学校＞

ふるさと新潟防災教育 自校化プラン

<p>学校・児童生徒・地域等の実態 ※地域の優先ハザード</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学区に海岸があり、ハザードマップでは地震の際の津波の浸水が想定されている地区がある。 ・加治川が増水した場合、学区の半分くらいの地域は浸水被害を受けやすいエリアでもある。 ・津波が起きた場合、中学校が避難所となる。 ・毎年、中学校、隣接の小学校、保育園で合同の避難訓練を実施している。
<p>保護者・地域・教職員等の願い</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・災害が発生した場合、安全に配慮しながら「生命第一」で適切に判断して行動してほしい。 ・「自分の命は自分で守る」という姿勢を身に付けてほしい。 ・日頃から、災害が発生しても落ち着いて行動できるように、避難訓練には真剣に取り組んでほしい。
<p>防災教育において目指す児童生徒像</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・災害時に、危険を自ら察知し、冷静かつ迅速に適切に判断し、一人でも避難行動ができる。 ・自然災害発生メカニズムや災害発生時の対応の仕方など基本的なことを理解している。 ・生命尊重を第一に考え、進んで他の人や地域の安全確保に役に立つことができる。
<p>補助交付期間に実施した主な取組</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・保小中合同避難訓練（地震・津波）【6月】 ・避難訓練（地震・津波）【11月】 ・防災学習講座【11月】 ・AED講習会（保健体育）【12月】
<p>自校プランの内容</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・保小中合同避難訓練（地震・津波）【6月】 ・避難訓練（地震・津波）【11月】 ・応急処置の仕方（保健体育）【11月】 ・AED講習会（保健体育）【12月】 ・自然災害に関する学習（理科）【2学期】
<p>自校プランを継続するための方策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・新潟県防災教育プログラムの中で、教育計画に反映させることができるものがないか検討し、可能なものから実施していく。 ・防災に関する講演会に代わる内容を、全校朝会の講話で実施する。

新発田市立紫雲寺中学校 「ふるさと新潟防災学習」年間活動計画

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
第1学年			保小中合同避難訓練(地震・津波)								地震・津波・火山による災害(理科)	
第2学年								避難訓練(地震・津波) 防災学習講座	応急処置の仕方(保健体育)	台風・大雨による災害(理科)	AED講習会(保健体育)	
第3学年												原子力発電による災害(理科)

実践報告書

(1) 事業名	避難訓練並びに学習講座の受講
---------	----------------

(2) 実践報告

実践内容及び児童生徒の様子	<ol style="list-style-type: none"> 1 生徒への予告なしの避難訓練の実施 <ul style="list-style-type: none"> ・落ち着いて行動できた生徒が多かった。 ・実際に避難する際の問題点を把握できた。 2 ふるさと未来創造堂による防災講座の聴講 <ul style="list-style-type: none"> ・災害発生時の人間の行動の特徴を理解することができた。 ・話し合い活動に積極的に参加し、お互いの意見を交換することができた。
成果と今後の課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ハザードマップ上では安全だと思われる場所でも、多くの人の命が奪われていることから、「一人一人が正しく判断し行動することが命を守ることにつながる」と理解できた。 ・学校での避難だけでなく、自宅にいるときや登下校時に災害が起きたときのこと想定し、正しく判断してできるように準備できるとよい。

実践の様子



講師からの問いかけ



各自の考えを持ち寄っての話し合い



考えていることを発表



ハザードマップの外で多くの方が亡くなっているのはなぜ？

令和元年度 新発田市立紫雲寺中学校 防災学習計画案

実施日時：令和元年 11 月 13 日（水） 14：50～15：40（50 分）※14：35～避難訓練（津波想定）

対 象：全校生徒（190 名程度） 会場：体育館 派遣講師：事務局長兼常務理事 中野 雅嗣

ねらい：(1) 津波が発生する仕組みと被害の大きさを知る。

(2) 新潟県も津波の被害があり、津波の可能性を知ることを知る。

(3) 過去の災害時の様子から、逃げられない人の心理や災害弱者の存在に気付く。

(4) 津波災害から命を守るための行動や大切な心構えを考える。

流 れ：

1. 新潟地震の写真資料等から、新潟県にも津波が来る可能性があることを知る。 【8 分】
 - ・新潟地震の写真資料等を見せ、被害の様子を伝える。
 - ・津波が発生する仕組みと東日本大震災の被害写真等からその破壊力等を伝える。
2. 津波からの逃げ方を知る。 【12 分】
 - ・東日本大震災の死者数と原因を提示し、「なぜ、こんなにも多くの人が津波で亡くなってしまったのか」を考えさせ、個人の考えを A4 白紙用紙に書かせる。グループで共有する。
 - ・津波で亡くなった人の行動について紹介し、様々な理由から「命を守る正しい行動がとれなかったこと」を伝える。
 - ・津波表示板や津波に関する標識を説明する。津波避難三原則を提示して、身の守り方を押さえる。
3. 東日本大震災での津波の被害を知り、津波から命を守るために大切なことを考える。 【23 分】
 - ・東日本大震災の鶴住居地域での死者・行方不明者の分布と地区の浸水想定図を提示し、「浸水想定がされていなかった場所での死者が多い理由」についてグループで考えさせ、A3 白紙用紙またはホワイトボード等にかかせる。
 - ・津波は想定を超えること、逃げられない人の心理や一人では逃げられない災害弱者の存在について伝える。
 - ・「津波から 1 人でも多くの命を守れるように中学生にできること」をグループで話し合い、A3 白紙用紙またはホワイトボードにかかせる。数グループから全体で発表させる。
4. まとめ 【7 分】
 - ・東日本大震災時の釜石地域の中学生がどのように行動したか伝え、津波から命を守るために自分が率先して逃げることで周りの命を救うことにつながることを伝えて、まとめる。

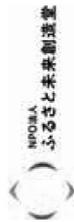
準 備：プロジェクター、スクリーン、HDMI ケーブル、電源ドラム、ワイヤレスマイク、PC 置き用机、A4 白紙用紙 1 枚×人数分、A3 白紙用紙またはミニホワイトボード×グループ数分、振り返りワークシート×生徒数（添付データになります。）

※PC は講師が持ち込みます。ワークシートの記入時間は講座中にとれません。講座終了後に各クラスで記入をお願いします。1 点お願いががございます。後日各学年のワークシートを 5, 6 枚程度無作為抽出でご提供ください。お手数をお掛けしますが、宜しくお願いいたします。

以上になります。ご不明な点等ございましたらご連絡ください。よろしくお願いたします。

NPO 法人ふるさと未来創造堂 中野雅嗣

新発田市立紫雲寺中学校 防災学習
津波災害から命を守る



常務理事兼事務局長 中野 雅嗣

今日の学習

※ ワークシートの「1.感想欄」はメモで。

- ① 津波について知る
- ② グループワーク「津波から命を守るために大切なこと」
- ③ まとめ

NPO法人
ふるさと未来創造堂

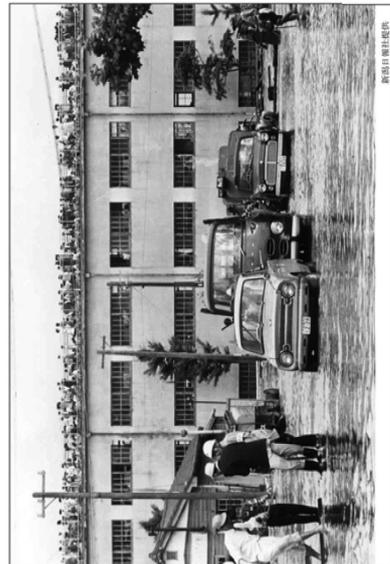
令和元年6月18日 山形県沖地震

NPO法人
ふるさと未来創造堂

今から55年前の6月16日…

新潟地震が発生！

NPO法人
ふるさと未来創造堂



出典：新潟県防災教育プログラム（津波災害編）

NPO法人
ふるさと未来創造堂



出典：新潟県防災教育プログラム（津波災害編）

NPO法人
ふるさと未来創造堂



出典：新潟県防災教育プログラム（津波災害編）

NPO法人
ふるさと未来創造堂

平成23年 東日本大震災

高さ4mの津波が新潟市を襲った！

NPO法人
ふるさと未来創造堂

<p>グループ活動の進め方 (7分)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 課題についてグループで話し合う。(3分) 2. 「考え」や「理由」をまなボードに書く。(2分) 3. 複数の考えがある場合には、自分の考えを絞る。(2分) <p style="text-align: right;">NPO法人 ふるさと未来創造堂</p>	<p>東日本震災の死者数と原因</p> <p>① なぜ、こんなにも多くの人が、「津波」で亡くなってしまったのだろうか？</p> <p>溺死 12,143人 (92.5%)</p> <p>9月 2011年4月19日 最新データ NPO法人 ふるさと未来創造堂</p>	<p>津波で亡くなってしまった人の行動 (抜粋)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一度避難したが、家に貴重品等を取りに戻った。 ・避難した場所が低い場所だった。 ・どこに避難すればいいのかわからなかった。 ・家族がそろうのを待って逃げて逃げなかった。 ・車で避難しようとして渋滞に巻き込まれた。 <p>命を守る正しい行動ができなかった</p> <p style="text-align: right;">NPO法人 ふるさと未来創造堂</p>
<p>津波から命を守る正しい行動は？</p> <p style="text-align: right;">NPO法人 ふるさと未来創造堂</p>	<p>津波から命を守る行動</p> <p>遠くではなく、少しでも高い場所へ</p> <p style="text-align: right;">NPO法人 ふるさと未来創造堂</p>	<p>津波から命を守る行動</p> <p>川の側からはなれる</p> <p style="text-align: right;">NPO法人 ふるさと未来創造堂</p>
<p>津波から命を守る行動</p> <p>一度避難したらもどらない。</p> <p style="text-align: right;">NPO法人 ふるさと未来創造堂</p>	<p>津波に関する表示板や標識も確認</p> <p style="text-align: right;">NPO法人 ふるさと未来創造堂</p>	<p>正常化の偏見</p> <p>今までも大丈夫 だったから...</p> <p>集団同調性バイアス</p> <p>周りの人も逃げて いないから...</p> <p>避難をさまたげる「人間の心理」</p> <p>自分の心に打ち勝ち、正しい避難行動を！</p> <p>「誰かが最初に逃げることで、周りも避難する！」</p> <p style="text-align: right;">NPO法人 ふるさと未来創造堂</p>

新発田市津波ハザードマップ



出典：新発田市津波ハザードマップ

ふるさと未来創造堂

②なぜ、こんなにも多くの方が、ハザードマップの「外」で亡くなったのだろう？

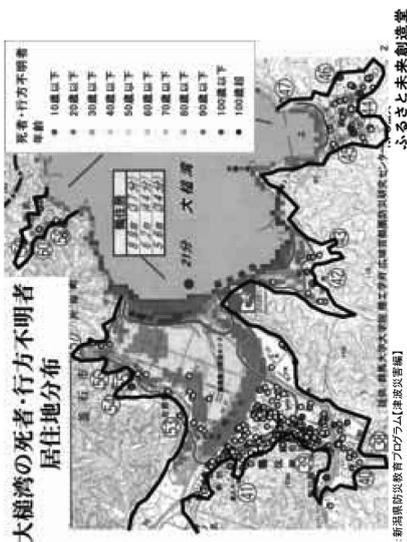


出典：新潟県防災教育プログラム【津波災害編】

ふるさと未来創造堂

小さな子たちは
助けることができた。
でも、
お年寄りを助けられなかった。
くやしい。。。

ふるさと未来創造堂



出典：新潟県防災教育プログラム【津波災害編】

ふるさと未来創造堂

想定にとられるな！
自分の命を守るために、最善をつくせ！



ふるさと未来創造堂

津波で亡くなってしまった人の行動（抜粋）

- ・車が無くても移動できず、自宅の2階で亡くなった。
- ・病気で寝たきり。身動きができなかった。
- ・「もう歩けない。もういいよ。」避難を諦めた高齢者
- ・自力で避難できない高齢者を置いて逃げるわけにはいかなかった。消防団と助けに行った。
- ・避難しない人たちに、最後まで無線で呼びかけた。

自分だけでは避難できない人もいる。
1人でも多くの人を助けるために行動する人もいる。

ふるさと未来創造堂

平成23年東日本大震災 釜石市鶴住居地区の様子

ふるさと未来創造堂

津波避難三原則

誰かが最初に逃げることで、周りも避難する！

率先、避難者たれ！

想定にとられるな！

自分の命を守るために、最善をつくせ！

東日本大震災時、小学生や地域の人たちを
救った「中学生」がいる。

ふるさと未来創造堂

津波から

1人でも多くの命を守れるように、
中学生として出来ることは？

ふるさと未来創造堂

<新発田市立豊浦中学校>

ふるさと新潟防災教育 自校化プラン

<p>学校・児童生徒・地域等の実態 ※地域の優先ハザード</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・当校の校舎は、平成18、19年に耐震大規模改修工事を行い、崩壊・倒壊の危険は少ないものと想定している。 ・月岡断層の近くに位置し、1995年の新潟県北部地震（M6.0）では給食室が地盤沈下をする等の被害を受けた。 ・福島潟の近くの天王地区、太田川がある荒橋小学校区では、豪雨による下水氾濫や水害の恐れもある。 ・地震や水害等が発生した場合、学区を縦貫する国道460号線を始め、県道、市道などが寸断され、ライフラインも壊滅状態になる恐れがある。また、住宅の倒壊や丘陵地の落石等、相当の混乱が予想される。
<p>保護者・地域・教職員等の願い</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・災害から生命を守るための必要な能力や資質の向上を図ってほしい。 ・人間としての在り方・生き方を考え、生命を尊重する心を育成するとともに、他者に対する思いやりや助け合いの心、ボランティア精神等を養ってほしい。
<p>防災教育において目指す児童生徒像</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・災害時に状況を的確に判断し、安全に避難する能力を身に付ける（自助）。 ・優しさや思いやりの心を持ちながらボランティア等の活動に積極的に関わろうとする態度を養う（共助）。 ・災害時における学校が果たす役割について理解し、地域の防災体制を理解できる（公助）。
<p>補助交付期間に実施した主な取組</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・第1回避難訓練及び消防署員による講話（6月） ・全校一斉「新潟県防災教育プログラム」の実施（6月） ・第2回避難訓練及び地震に関わるDVDの視聴（11月） ・1、2年生避難所運営ゲーム「HUG」（11月） ・3年生現地（長岡震災アーカイブセンターきおくみらい）防災学習（11月） ・全校一斉「新潟県防災教育プログラム」の実施（2月予定） ・非常食試食体験（2月予定）
<p>自校プランの内容</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・年2回の避難訓練及び新潟県防災教育プログラムの実施 ・外部講師による防災教育（体験や講話等）の実施 ・現地研修の実施
<p>自校プランを継続するための方策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・防災教育に関わる活動を年間行事計画に位置づける。 ・防災関係機関との連携を通じた防災教育の推進を図る。 ・防災教育に係る予算を確保する。

新発田市立豊浦中学校 「ふるさと新潟防災学習」年間活動計画

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
第1学年		第1回 避難訓練（地震・火災）及び消防署員講話	県防災教育プログラムに基づく全校授業									
第2学年								第2回 避難訓練（火災）及び震災に関わるDVD視聴	避難所運営ゲーム（HUG体験）		県防災教育プログラムに基づく全校授業 非常食試食体験	
第3学年												現地防災学習 （長岡震災アーカイブセンター）

実践報告書

(1) 事業名	防災教育推進事業
---------	----------

(2) 実践報告

実践内容及び児童生徒の様子	<ul style="list-style-type: none"> ・毎年通常行っている避難訓練に、消防署員の講話や災害に関わる DVD 視聴等を盛り込み、防災意識の高揚を図った。 ・新潟県防災教育プログラムの確実な実施を図った。 ・1, 2 年生は NPO 法人ふるさと未来創造堂による「避難所運営ゲーム (HUG)」を体験し、避難所運営の難しさや地域を支える中学生としてどう行動すべきかを考える機会となった。 ・3 年生は防災現地学習として、長岡震災アーカイブセンター (きおくみらい) を訪問し、学びを行った。現地の被害の甚大さを感じるとともに、減災や復興に向けた自助・共助について深い学びを得た。
成果と今後の課題	<ul style="list-style-type: none"> ○各活動後における生徒の振り返りからも、防災に対する意識の高まりや災害時の行動について深く考えることができたことが伺えた。 ●地域連携を考慮した防災活動への体制づくりや次年度以降も継続可能な自校の防災教育プログラムの修正が必要である。

実践の様子



1、2年生 避難所運営ゲーム (HUG) の様子



3年生防災現地学習 (長岡震災アーカイブセンターでの学び) の様子

新発田市立豊浦中学校 防災講座計画案

- 1 ねらい
 - ・避難所運営ゲーム HUG（ハグ）の体験を通して、災害時の避難所運営の難しさを知る。
 - ・地域を支える中学生として、これからの自分の目標を考える。
 - ・防災（減災）とは何かを考えるきっかけをつかむ。
- 2 日 時 令和元年 11 月 22 日（木） 午後 2 コマ 110 分
- 3 場 所 豊浦中学校 ※ 全生徒が一緒に活動できる場所をお願いします。
- 4 講 師 N P O 法人ふるさと未来創造堂 事務局長 中野雅嗣・中野明子
- 5 参加者 第 1・2 学年生徒 100 名程度、地域住民（自治会長や PTA 等）
※ 地域の方へのお声かけが難しい場合には流れを調整します。
- 6 内 容
 - ・災害時の避難所の様子を知る。
 - ・避難所運営ゲームを体験し、災害時の避難所で起こることを具体的にイメージする。
 - ・災害発生時や避難生活で地域が中学生に期待していることを知る。
 - ・これから探求していく目標を設定する。
- 7 当日の流れ ※生徒 5, 6 名（縦割り）+ 地域住民 1 名程度、計 16、7 グループで活動を予定。
グループ数が決まりましたらお知らせください。

① 避難所運営ゲーム HUG の体験し、災害時の避難所で起こるコトを具体的にイメージする
(50 分)

- 1) 過去の災害時の避難所の様子や課題を写真資料から学ぶ (7 分)
- 2) ゲームの説明 (8 分)
- 3) グループで避難所運営ゲーム HUG を体験させる (35 分)
※全体での指示・進行は講師が行います。活動がスムーズに進むよう、グループを見て周り、
進行のサポートをお願いします。

<休憩 5 分>

② 災害時に自分たちにできるコトを考える (55 分)

- 1) 地域の大人と一緒にグループワーク (40 分) ※模造紙とマジックを配る。
 - i) 他のグループから HUG で、特に悩んだこと・工夫したことを聞く。 (内 5 分)
 - ii) 模造紙を使って、グループで話し合う。 (内 28 分)
 - ・他のグループから聞いた、悩んだこと・工夫を共有する。
 - ・「HUG を体験しての気付き」や「災害発生時の不安」を書き出し、グループ内で共有する。
 - ・共有した気付きや不安を踏まえて、豊浦地区の全ての人が、少しでも安心して避難生活を過ごすために「大切なキーワード」をグループで話し合い、書き出す。
 - iii) 2 グループで、話し合ったこと・大切なキーワードを伝え合う。 (内 4 分)
 - iv) 両グループの大人から、災害時に中学生に頼りたい・期待していることを“1 つ”伝えていただく。 (内 3 分)
- 2) まとめ (7 分)
 - i) 過去の災害時の様々な地域共助（助け合い）や避難所で活躍をしていた中学生の事例等を紹介し、中学生にできることが沢山あることを伝える。
- 3) 地域を支える中学生として、自分ができるようになりたいコトを考える (8 分)
 - i) 大切なキーワードの実現に向け、自分が探求していく目標を設定し、プリントに書き出す。

9 持ち物・準備品

- ※ HUG のイメージが湧きにくいと思いますので、事前に1セット貸し出します。ご確認ください。
 付属の説明書と CD に、ゲームの進め方や仮想の学校図面データが入っています。
 必要に応じて、ご活用ください。

生徒	学校	講師
<ul style="list-style-type: none"> ・筆記用具 (体操着OK) 	<ul style="list-style-type: none"> ・プロジェクター ・スクリーン ・延長コードドラム 1個 ・PC置き用の机 1脚 ・ワイヤレスマイク 2本 ・図面(敷地図、体育館図面、校舎平面図)、 A4用紙1枚、付箋紙(50mm×15mm程度のもの) グループ数分 ※図面は参考にお送りした HUG マニュアルの CD の中 にデータがあります。教室図面は講師がピックアップ して準備しますので、上の3種類のみ印刷してご準備 ください。 ・模造紙(半紙) グループ数分 ・マジック(プロッキー) 生徒数分 ・振り返り用プリント 生徒数分 	<ul style="list-style-type: none"> ・PC1台 ・避難所運営ゲーム 「HUG」カード ・教室図面

以上になります。当日は30分前に会場入りし、活動の準備をします。
 お忙しい時間に恐縮ですが、1,2名程度の方からお手伝いをお願いいたします。

その他ご不明な点等ございましたらご連絡下さい。よろしくお願いいたします。

ふるさと未来創造堂 中野

災害時、 私たちが地域の一員として できることは？

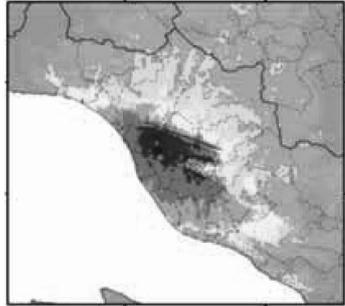
NPO法人ふるさと未来創造堂
常務理事 兼 事務局長 中野 雅嗣

NPO法人
ふるさと未来創造堂

避難所は、
赤ちやんから
高齢者まで、
みなで協力して
生活をする場所

NPO法人
ふるさと未来創造堂

もしこの地震が発生したら・・・



引用：地震調査院「東日本大震災」

新発田市内で 震度7クラスの地震

- ・阪神淡路大震災
- ・新潟県中越地震
- ・東日本大震災
- ・熊本地震
- ・北海道胆振東部



NPO法人
ふるさと未来創造堂

今日の講座の流れ

- ・災害時の避難所について知る
避難所の実際と課題
- ・避難所運営ゲームの体験
グループに分かれて、避難者を受け入れるゲーム
〈休憩〉
- ・グループワーク
全ての人が、安心して避難生活を過ごすために
大切なことは？ → シェア

NPO法人
ふるさと未来創造堂

新発田市の避難所はどのようなときに開設するの？



地震の場合

市内で
震度5弱以上

避難所を開設する

市内で
震度4以下

必要に応じて

- ・津波注意報や警報
- ・住民の自主的な避難

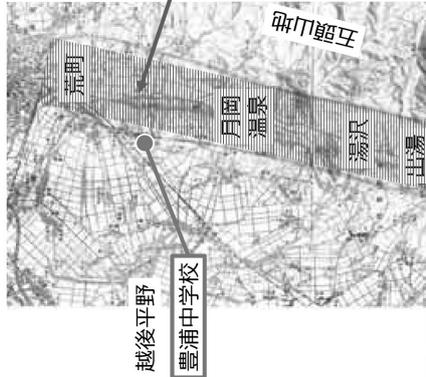
NPO法人
ふるさと未来創造堂

平成23年3月12日

NPO法人
ふるさと未来創造堂

避難所

NPO法人
ふるさと未来創造堂



NPO法人
ふるさと未来創造堂

車やラントで生活をする人もいる。

けが人や病気の人が一人でも動けない人もいます。

NPO法人
ふるさと未来創造堂

移動できないし、昼間から寝て時間を過ごす人もいます。

NPO法人
ふるさと未来創造堂

介護が必要なお年寄り・障がいを持っている人も。

NPO法人
ふるさと未来創造堂

日本語の読み書きができない人も、災害や避難所を知らない人もいます。

NPO法人
ふるさと未来創造堂

ペットが家族同然の人もいます。

NPO法人
ふるさと未来創造堂

避難所とは

- ・不幸な死者を出さないよう、みなで協力して支え合う場所
- ・生活の再建に向けて、“心”と“体”の準備をする場所

NPO法人
ふるさと未来創造堂

避難所で起こる様々な問題

- ・避難スペースのかたより・コミュニケーション不足
- ・生きるために最低限必要なものもない
- ・体調不良、ケガ人、高齢者の対応
- ・いびき、せき、歯ざしり、寝言、泣き声
- ・プライバシーの欠如・バラバラな生活スタイル
- ・トイレの水が流れない・役割分担の偏り等々

NPO法人
ふるさと未来創造堂

熊本市立桜木東小学校

ひなん所の運営をするひなん者のリーダー
 「物がたたりない」人手がほしい
 →2週間後、、、ひなん所に来なくなった。
 もっと助けてくれる、協力してくれる人がいたら……

誰が運営する？

情報・物・支援策を持っている人

+

市の職員

施設（避難所）をよく知っている人

中学生にできることは？

地域・被災者をよく知っている人

+

地域の人

避難者自身 + 協力者（ボランティア等）

避難所運営ゲームHUG（ハグ）を体験してみよう。

NPO法人
ふるさと未来創造堂

HUGの進め方

- ① 全体の進行役が、“避難者カード”と“イベントカード”を読み上げます。
- ② グループのメンバーは読み上げられた内容を聞き、“避難者カード”の場合は、**学校の図面を使って**どこに避難させるかを決めて、その場所にカードを置く。“イベントカード”の場合は、どのように対応するかグループで考えて、付箋紙（小）に書く。

グループに余裕を与えないよう、次々とカードを読み上げます。避難者の情報を聞き流さないように！！

NPO法人
ふるさと未来創造堂

避難所（中学校）の状況

- ・校舎、教室、体育館に大きな被害はない。
- ・グラウンドには亀裂が入っているところもある。
- ・電気、ガス、水道は全て使えない。
- ・先生は部活顧問が数人。他はグループのメンバーのみ。

NPO法人
ふるさと未来創造堂

グループワーク

- ・グループで避難所運営ゲームHUGを体験した感想やわかったことを話し合います。

模造紙をグループの中央に置いて、囲むように座ります。となりの人との間隔は、なるべく広くとりましょう。

模造紙

・プロッキー（1セット ※黄色以外で）

・模造紙 ・筆記用具

NPO法人
ふるさと未来創造堂

時 分まで

NPO法人
ふるさと未来創造堂

災害想定

11月23日（土） 震度6強の地震発生

- ・現在の時刻は12時 天気は雨のち雪 気温は5度。予報では、最低気温1度。
- ・ここは、豊浦中学校

【地域の被害状況】

倒壊家屋：数件あり

道路：亀裂や陥没あり

携帯電話：ほとんどつながらない。

NPO法人
ふるさと未来創造堂

グループで役割を確認。

【役割】 ※原則全員で話し合います。地域の方は“隊員”

- ・隊長 1名 話し合いの進行と決断・指示
- ・副隊長 1名 ①隊長のサポート（判断・補助全般）
②読み上げられたカードを取り出して地図上に準備する。
- ・隊員 数名 ①避難者をどの場所に避難させるか、イベント対応をどうするかを考え、グループに提案する。
- ・書記 1名 ①読み上げられたカードの把握
②イベント対応等の付箋紙や地図への記入・貼り付け

NPO法人
ふるさと未来創造堂

グループワーク

話し合い②

※地域の方は、子どもの話し合いを見守ってください。

- ③ 模造紙の中央に、豊浦地区の全ての人が、少しでも安心して避難生活を過ごすために「大切なキーワード」を書き出す。「そう思う理由」を書き出す。

NPO法人
ふるさと未来創造堂